

熱中症予防の普及啓発・注意喚起について

【趣旨】

今年は例年より熱中症による健康被害が数多く報告され、市内の熱中症疑いによる救急搬送件数が急増し、6月末時点で前年同時期の3倍となっています。また、熱中症疑いによる死亡者も出ている状況にあり、例年以上に残暑が厳しくなることが予想されます。そのため、包括連携協定企業のご協力のもと、熱中症となるリスクが高い高齢者に清涼飲料水を配布し、水分の摂り方や室温管理について呼びかけを行います。

【市内の熱中症に関する状況】

(1) 熱中症疑いによる救急搬送状況 (R7/5/1～R7/7/22 時点)

熱中症疑いによる搬送人数	うち、65歳以上の人数
159人	84人(53%)

※令和6年度 搬送件数 187人(うち、65歳以上の人数 102人)

(2) 発生場所が住宅であった場合のエアコン使用状況 (55人中)

エアコン設置状況	有		無
	37人(67%)		18人(32%)
エアコン設置有りのうち、 エアコン使用状況	有	無	
	8人(22%)	29人(78%)	

《エアコン設置無しや未使用の主な理由》

- ・電気代が高い・クーラーが壊れている・クーラーが苦手・暑く感じない
- ・窓を開けたら風が通り、クーラーつけるほどでもない 等

【協力企業】

大塚製薬株式会社 (包括連携協定企業)

清涼飲料水 (イオンウォーター250ml) 90ケース (24本入/1ケース)

※その他、熱中症予防に関する取組について、児童・生徒向けの予防動画「はたらく細胞」の提供。

熱中症対策アンバサダー講座 (オンライン講座無料) 提供。

【配送先】

地域包括支援センター市内 18カ所 (1包括5ケースづつ)

【協力企業との連携】

《企業の協力》

本市が協力企業から購入した清涼飲料水 1,680本と、無償提供していただいた 480本の合計 2160本を、協力企業が地域包括支援センター18カ所に配送する (7/23～7/31)。

《本市の取組》

地域に暮らす高齢者のうち、一人暮らしや疾患のある方等を優先に、地域包括支援センターの職員や関係者が、訪問等で清涼飲料水を配布し、熱中症予防行動をしっかりと伝える。

【熱中症予防行動のポイント】

- ・喉が渇いていなくてもこまめな水分補給

(食事以外で1.2ℓ/日の水分摂取、コップ1杯1時間に1回程度)

- ・屋外では日傘を差し、帽子の着用
- ・屋内ではエアコン等で、28℃以上にならないように室温管理

【クーリングシェルター】

熱中症対策強化を目的に、令和6年度よりクーリングシェルター(指定暑熱避難施設)を指定している。熱中症特別警戒アラート発表期間中は、下記のクーリングシェルターを開放する。

那覇市クーリングシェルター

那覇市役所本庁舎1階 市民会議室
